

# 帯広圏デジタル化推進構想 の取り組みについて

---

帯広市・音更町・芽室町・幕別町  
2025年2月14日 帯広圏デジタル化推進協議会

# 目次

---

## ◆構想の推進について

1. 取組の考え方
2. 推進体制

## ◆ウェルビーイングエリアの取り組み

1. 共通のプラットフォームにより取り組むデジタル化
2. 可能な限り歩調を合わせて取り組むデジタル化
3. アドバイザリボードでの助言・意見等（抜粋）

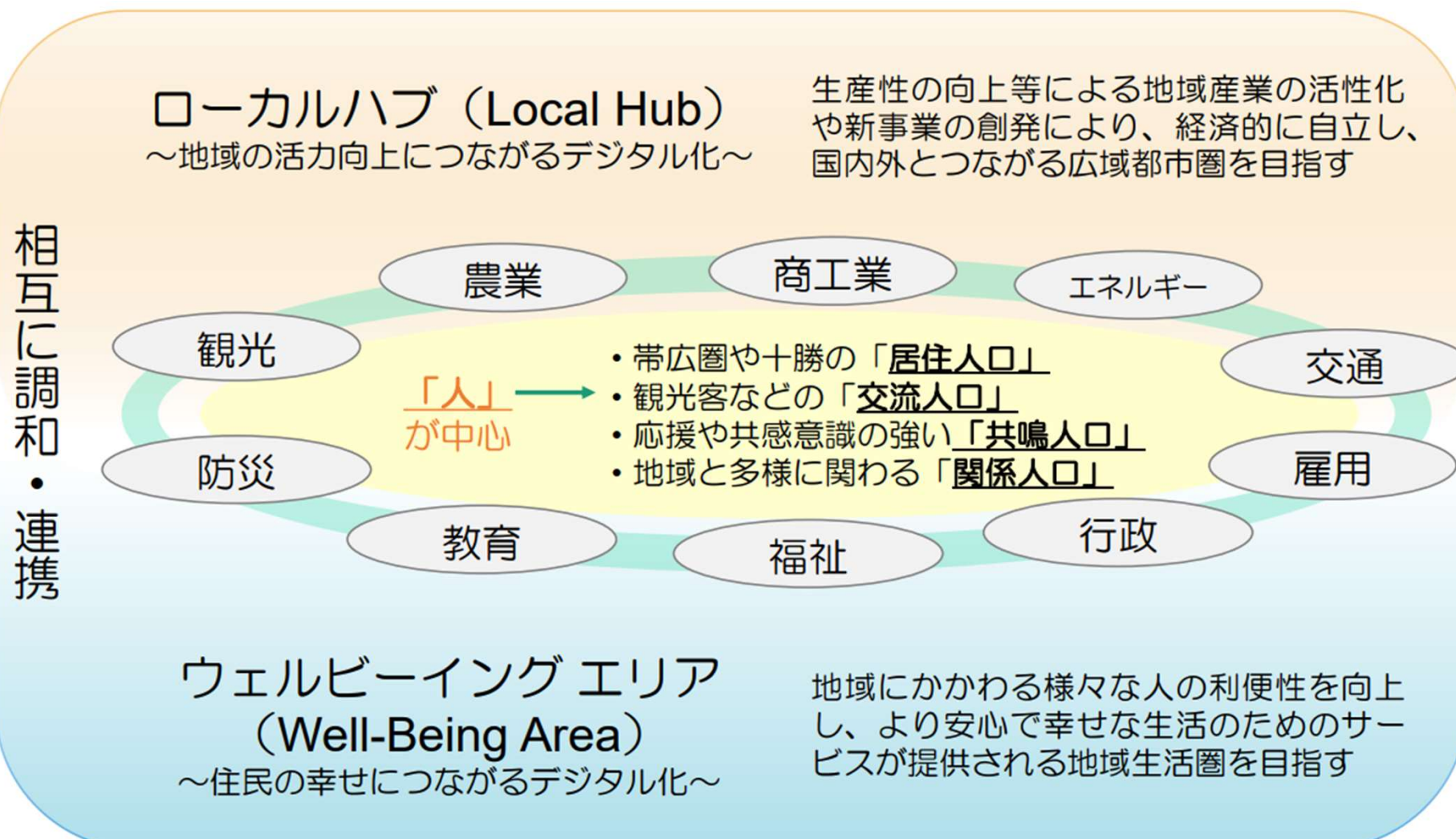
## ◆ローカルハブの取り組み

1. スマート農業の推進
2. 地域DX推進に向けた普及・啓発
3. アドバイザリボードでの助言・意見等（抜粋）

## ◆参考指標

# 構想の推進について

# 1.取組の考え方





# 1.取組の考え方（構想時例示）

## 分野の取組を例示的に記載

分野	主な対象者	施策概要
福祉・健康・社会生活	住民全般 福祉関係者	生涯にわたって、誰もが健やかで生きがいをもって暮らせるよう、日常生活の利便性を向上します。 オンライン予約やキャッシュレス決済など、公共施設等の利便性向上やリスキリング（学び直し）の充実を図ります。
子育て・学校教育	子育て世帯 児童生徒	子育てに関する手続きのオンライン化やスムーズな情報発信による保護者の利便性向上を図ります。 一人ひとりに合った柔軟な学習スタイルやコンテンツの提供により、学校教育の充実を図ります。
防災・生活インフラ	住民全般	インフラの維持管理や災害への対応力を高め、より安心・安全に生活できる環境づくりを進めます。
行政手続・行政事務	住民全般 自治体職員	行政手続のデジタル化による住民サービスの向上と業務効率化を図り、限られたリソースを有効に活用したスマートな行政運営を進めます。

# 1.取組の考え方（構想時施策例）

## 施策の柱

既存企業の成長・  
事業革新

地域内のバリュー、  
サプライチェーン  
強化による高付加  
価値化

事業創発や起業に  
よるすそ野の拡大

圏域外からの消  
費・投資の取り込  
みや、人材や知的  
資産の活用

## 行政の施策例

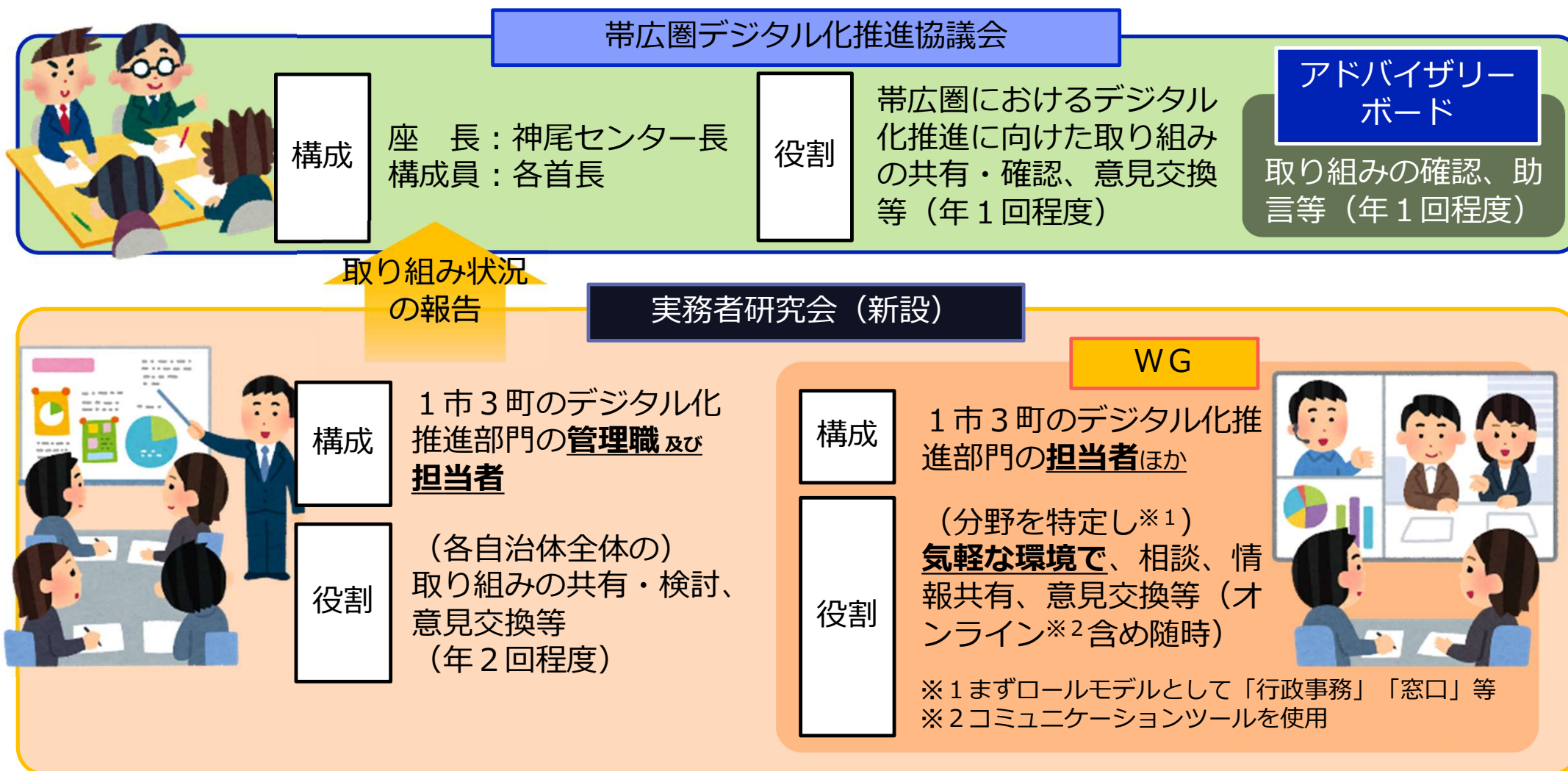
- ・ デジタル技術導入への支援
- ・ DX支援プラットフォームの検討
- ・ 地域の教育機関と連携したデジタル人材育成
- ・ サプライコールドチェーンなどの形成支援
- ・ 一次産業に資するデータセンターの誘致
- ・ 起業家や事業を持続的に生み出す仕組みづくり
- ・ アグリテックベンチャーへの支援
- ・ 輸出など販路拡大等の支援
- ・ アドベンチャートラベル等による観光コンテンツ高付加価値化の推進
- ・ 首都圏等大学との連携強化やAIマッチングによるUIJターンの促進
- ・ 大都市圏のデジタル人材との連携



## 民間に期待する事項

- ・ IoTやクラウド等のデジタル技術活用による生産性向上
- ・ DX支援プラットフォームへの協力
- ・ ビッグデータの活用による需給予測
- ・ 一次産業に資するデータセンターの設置
- ・ 業界内でのDX取組例の共有、周知啓発
- ・ デジタルサービス分野への新規参入
- ・ VRやARを活用した観光コンテンツ開発
- ・ リモートワーク環境等の働き方改革の推進
- ・ デジタル人材の採用、登用拡大

## 2. 推進体制





# ウェルビーイングエリアの取り組み

**[共通 P F]** 共通のプラットフォームにより取り組むデジタル化  
**[歩調]** 可能な限り歩調を合わせて取り組むデジタル化



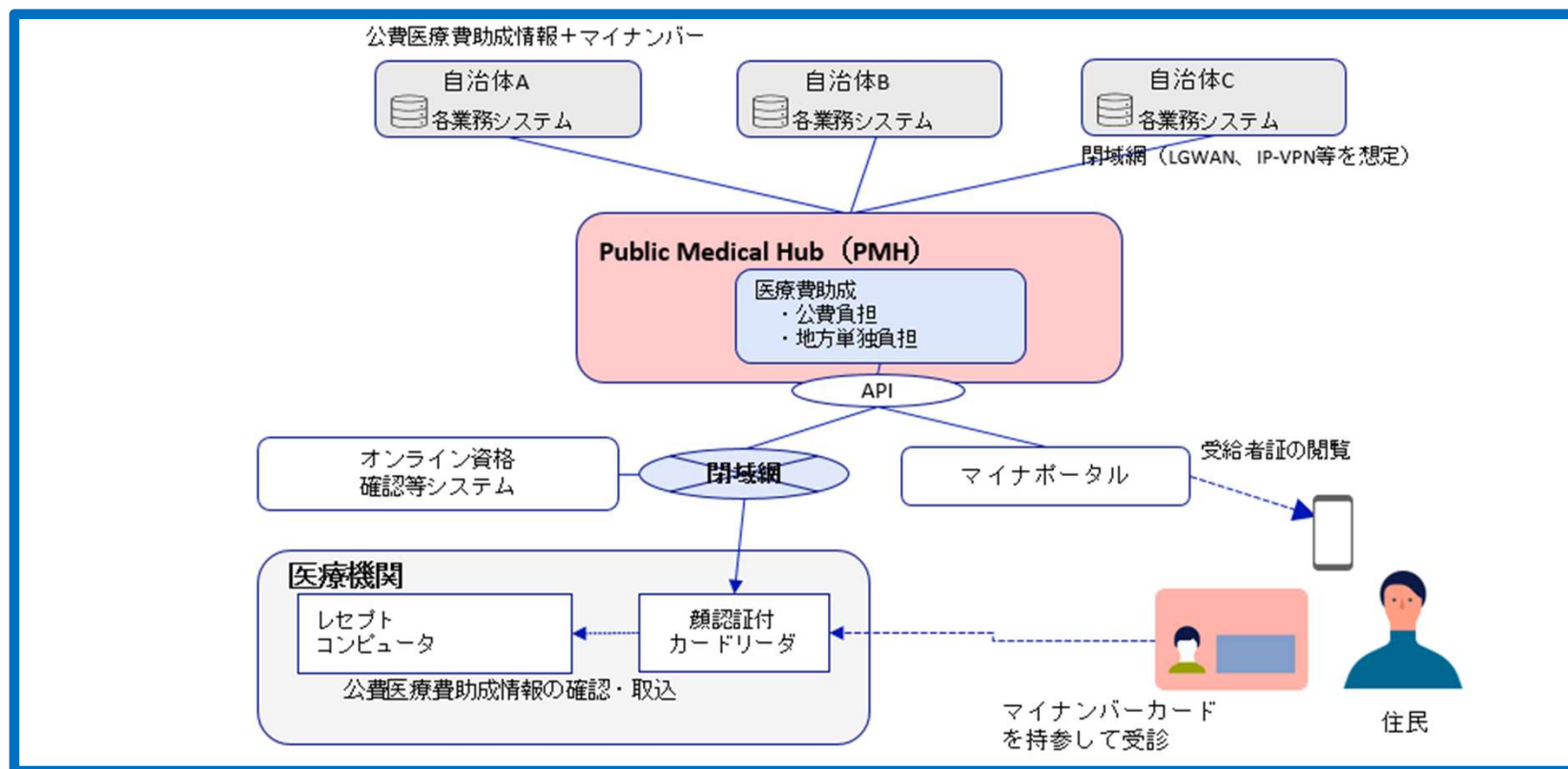
# [共通 P F] ①PMH（医療費助成）の環境整備

ウェルビーイング エリア  
(Well-Being Area)  
～住民の幸せにつながるデジタル化～

◇福祉・健康・社会生活

概要

：医療費助成の受給者証の情報を、自治体から医療機関/  
対象者に渡す仕組みの構築（先行実施）



環境整備

帯広

芽室

幕別

今後検討

音更

# [歩調] ②高齢者見守りサービス

ウェルビーイング エリア  
(Well-Being Area)  
～住民の幸せにつながるデジタル化～

◇福祉・健康・社会生活

## 概要

## : 高齢者の安否を見守るサービスの導入・検討

参考：QRコード



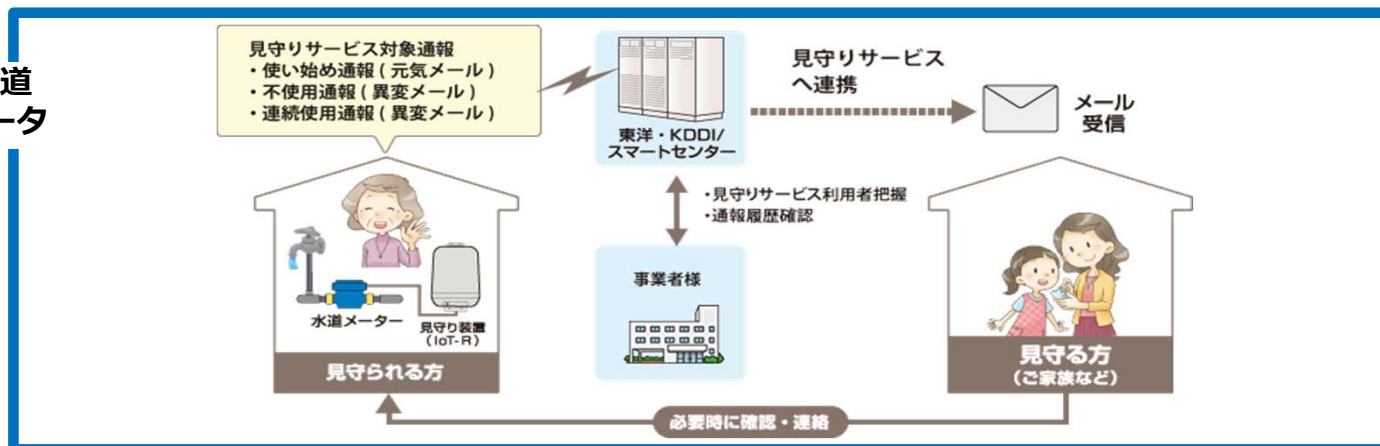
QR利用中

帯広

芽室

上水道スマートメータ  
研究中

参考：上水道  
スマートメータ



音更

検討中

幕別

出典：QR:東邦薬品<https://mirai-town.com/privacy-policy/>

上水道：東洋計器<https://www.toyokeiki.co.jp/service/watch/water.html>

## [歩調] ③デジタル健康マイレージ事業

ウェルビーイングエリア  
(Well-Being Area)  
～住民の幸せにつながるデジタル化～

◇福祉・健康・社会生活

概要

：ウォーキングを楽しく続けながら「健康で長生き」をめざすサービス

### 健康マイレージ事業のイメージ（帯広市）



スマホでアプリを  
ダウンロード



歩いたり、健診  
(検診)を受ける



ポイントをためる



特典を受ける

導入済

帯  
広

音  
更

検証実施中

芽  
室

幕  
別

## [歩調] ④役所窓口での会話（音声情報）の画面表示

◇福祉・健康・社会生活

### 概要

：音声認識と自動翻訳を活用した「視聴覚障害者間・多言語・世代間コミュニケーション」アプリの導入検討



導入済

音更

実証事業を検討

帯広

検討中

芽室

幕別

出典：UDトーク：<https://udtalk.jp/about/>



## [歩調] ⑤障害者手帳等アプリの公共施設等対応

◇福祉・健康・社会生活

### 概要

： 障害者手帳等に替わり、スマートフォンアプリ（ミライロID）を公共施設等で提示し、割引等を受けられるよう対応

▼ミライロIDホーム画面（サンプル）▼



対応済

帯広

音更

検討中

芽室

幕別

(R7対応予定)

## [歩調] ⑥母子手帳アプリの導入

◇子育て・学校教育

### 概要

：妊娠から出産、子育てまでサポートするアプリにより、予防接種等スケジュール管理や健診情報等の記録が便利に

#### ▼母子モ画面（サンプル）▼

お子さまの成長を  
カンタンに記録！

成長記録や楽しい  
思い出を記録、  
家族皆で共有できます。



地域の育児情報が  
あると安心！

地域の情報が届きます。  
また、必要な施設を  
検索できます。



予防接種も  
カンタンに管理！

誕生日と接種状況などから  
最適なスケジュールを  
ご提案します。  
忙しい毎日でもプッシュ通知が  
届き、予定日を忘れず安心です。



来庁が難しい時は  
オンライン相談！

出産、子育て等についての相談が  
スマホ・タブレット・PCで  
ご自宅からビデオ通話が  
可能になりました！



オンライン相談の使い方は裏面へ▶



導入済

帯広

音更

幕別

R7.2月導入

芽室

## [歩調] ⑦都市計画情報等のデジタル化・オープン化

ウェルビーイング エリア  
(Well-Being Area)  
～住民の幸せにつながるデジタル化～

◇防災・生活インフラ

概要

：地図情報システム（GIS）を用いて、わかりやすい形で  
台帳情報等を提供する

### 国民生活に密着した利用の例

#### 携帯電話を利用した位置情報サービス



歩行者ナビゲーション  
サービス



観光案内サービス

#### インターネットを用いた各種情報案内



駐車場位置・満空情報  
提供サービス  
〈財〉東京都道路整備保全公社



導入済

音更

導入予定

幕別

検討中

帯広

芽室

## [歩調] ⑧生成AIの積極的活用

◇行政手続・行政事務

概要

：生成A Iを庁内業務（文書作成、要約、アイデア出し、プログラム作成等）で活用



庁内展開

音更

幕別

試行中

帯広

検討中

芽室



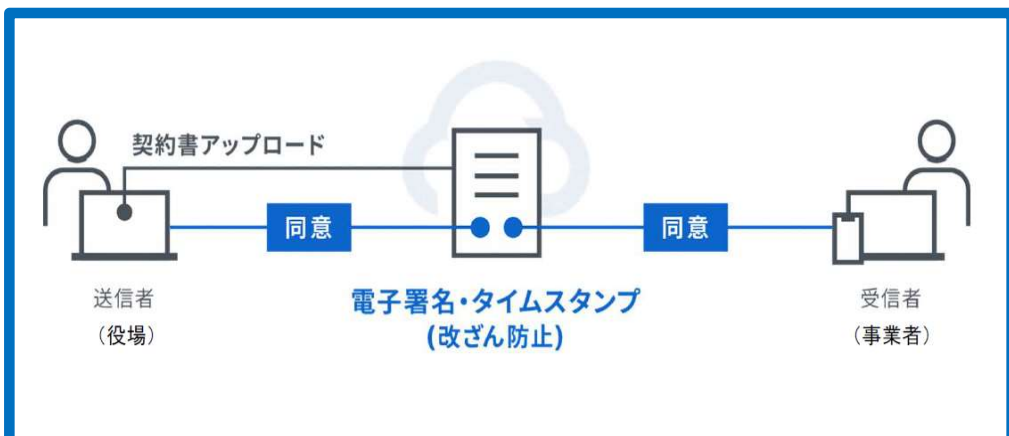
# その他の取り組み

## ○帯広市：保育ICTシステムの導入



出典：CODMON <https://www.codmon.com>

## ○音更町：電子契約の導入



出典：CLOUDSIGN <https://www.cloudsign.jp/about/>

## ○芽室町：XからDへ

- ・芽室町DX推進ビジョンの策定
- ・窓口体験調査の実施 (R5、R6)
- ・全係が取り組む「1係1DX」を実施中



## ○幕別町：除雪管理システムの導入

### 除雪車の現在位置をお知らせ

除雪車の現在位置を地図上（除雪対象路線図）にリアルタイムで表示します。

### 町内4カ所の積雪状況を公開

町内4カ所（幕別、札内、糠内、忠類）の赤外線センサーで計測した1時間ごとの降雪深など積雪状況を公開します。

### スクールバスの現在位置をお知らせ

スクールバスの現在位置を地図上（スクールバス路線図）にリアルタイムで表示します。

### 除雪作業の経過時間をお知らせ

地図上（除雪対象路線図）に除雪作業から経過した時間を色分けして表示します。



# アドバイザーボードでの助言・意見等（抜粋）

---

## 【全体】

- 圏域全体としてどのような領域・分野から手掛けるか、基本的な考えをまとめておく必要がある。
- 自治体間や異なる分野間での連携を進める上で、国が提供するプラットフォームにどのように適応するのが重要。分野のニーズ、市町村の要請に応じて個々に取り組みはじめると、国・北海道等の制度構築が後になされた場合、後戻り（追加コスト）になる危険性もある。
- 自分たちの活動を大きな声で外部へアピールしていくことも重要と思う。活動を共有することで、他の地域や団体と連携しやすくなる。
- 現場の方が喜ぶ取り組みを、インセンティブを与えながら、皆で楽しく進めることが理想。

## 【①PMHの環境整備】

- 行政が民間医療機関をどれだけ引き込めるかが鍵であり、そのための工夫が必要。

## 【②高齢者見守りサービス】

- 「電気」「通信システム」は、地域の見回りや防犯活動において有効。「空き家問題」への取り組みも必要と思う。
- 町内会の新しい形を模索し、効率的に見守り出来る体制を目指す視点も必要。

## 【その他の取り組み】

- 芽室町の「XからD」というキーワードは素敵。まずトランスフォーメーションした状態をイメージすることが重要。ステップバイステップで進める事が大切。

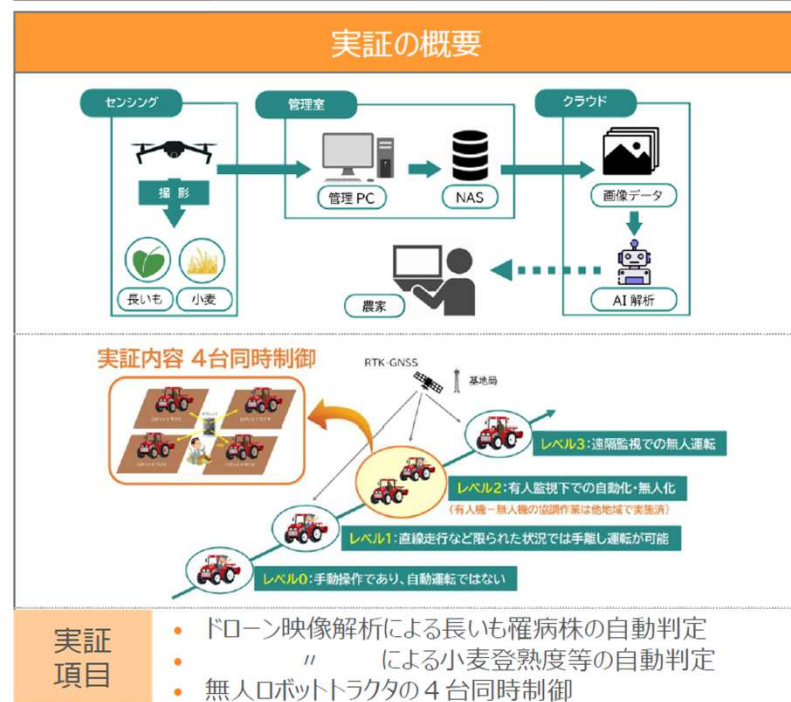
# ローカルハブの取り組みについて

# ①スマート農業の推進

ローカルハブ（Local Hub）  
～地域の活力向上につながるデジタル化～

## 地域に根差した、有用なスマート農業の技術開発 IoT/AIによる生産性向上や省力化の現場支援

地域課題と 目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域課題：農繁期の人手不足が規模拡大のボトルネックになっている</li> <li>②地域課題：農業従事者の高齢化に伴う離農により、技術伝承が困難</li> <li>③地域課題：農作業のイメージから農業への従事が敬遠されがちである</li> </ul>	目指す姿：無人トラクタの実現により規模限界を突破 目指す姿：熟練農業者のノウハウの形式知化することで技術伝承を容易化 目指す姿：過酷な作業から人を解放することで農業参入のハードルを低下
実施体制 (下線：代表機関)	帯広市川西農業協同組合、日本電気株式会社、株式会社スコーシャ、帯広畜産大学、ヤンマーアグリ株式会社、ヤンマーアグリジャパン株式会社、東洋農機株式会社、十勝農業協同組合連合会、とかち財団、NTTコミュニケーションズ、帯広市、北海道十勝総合振興局	実施地域 ・ 帯広市 (JA帯広かわにし)



実証成果・実装移行のハードル	
アウトカム 指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>長いも罹病株の巡回時間の削減</li> <li>小麦の登熟度や倒伏率の確認時間の削減</li> <li>ロボットトラクタによる加工馬鈴薯作業時間の省略化</li> </ul> 目標値(合計)：32,440時間
実装移行 の要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマート農業に係る投資の低コスト化</li> <li>農業者のICTリテラシーの向上</li> <li>スマート農業に適した農地の整備</li> </ul>

実装・展開のスケジュール		
2024年:実証	2026年:実装	2028年:展開
スマート農業技術の 帯広市での実証 <ul style="list-style-type: none"> <li>ドローン映像解析 (長いも・小麦)</li> <li>ロボットトラクタの複数 作業(馬鈴薯)</li> </ul>	スマート農業技術の システム確立 <ul style="list-style-type: none"> <li>実証内容の社会実装 (省力効果の確認)</li> <li>スマート農業の一貫体 系の拡大</li> </ul>	デジタル化の進展による、 十勝産業の進化 <ul style="list-style-type: none"> <li>帯広市の先行好事例 の情報共有化</li> <li>産業分野でのデジタル活 用による成長・事業革新</li> </ul>



## ②地域DX推進に向けた普及・啓発

### 帯広圏デジタル化推進構想

#### ローカルハブ（地域の活力向上につながるデジタル化）

- ・十勝は「農業」を中心とした産業振興により、経済圏・生活圏をともし、一体的に発展
- ・今後も、地域の稼ぐ力を継続的に向上させていくため、デジタル技術を有効に活用

- ・生産性の向上等による地域産業の活性化や新事業の創発により、経済的に自立し、国内外とつながる広域都市圏を目指す

### 道内企業の状況

- ・DX認知度・理解度は、約6割が「聞いたことある」「何となく理解している」段階
- ・約5割がDXに「取り組んでいない」
- ・約7割が「人材不足」「知識不足」が課題と回答  
（北海道経産局2021.10～11）

- ・自社の課題や業界内での位置づけ等を認識し、何をすべきか、事例等を参考に検討する必要
- ・ただし、中小企業の自助努力では限界

他地域の事例

### （イメージ）DX推進協議会？

- ・自治体、産業支援機関、商業団体、金融機関、ベンダ等からなる組織で、地域のDXを推進する機運を高めていく
- ・講演会・勉強会等による普及・啓発、DX支援制度等の情報提供・共有、産業支援機関等への連携などを図る

# アドバイザーボードでの助言・意見等（抜粋）

---

## 【全体】

- 行政には、具体的な利益を示すことで人々の関心を引き付けながら、地域全体の成長を促すために公平性や透明性を確保していく役割が必要。
- 地域の人手不足問題の解消に向け、首都圏から地方に移住し就労体験をするプロジェクトを3ヶ月間実証し、協議の場の形成や、様々なプレイヤーを繋ぐことができた。重要なのは、自分事化し、これから困ることは何かという課題を設定したうえで、方針まで決めきること。
- 農業中心の取り組みでよいが、インフラ（ドローン等によるデータ可視化）・エネルギー領域（×脱炭素・再エネ）の拡大も可能性があるのではないかな。

## 【①スマート農業の推進】

- 一部の地域や企業のみには利益をもたらすのではなく、地域全体の発展に繋がるように行政が説明責任を果たし、住民理解が得られるようにすることが重要。
- データをオープンに活用することで産業全体の発展に繋がる。行政はこのプロセスを支援するべき。

## 【②地域DXの推進に向けた普及・啓発】


- 「トランスフォーメーション」して「デジタル化」することが重要だが、日本ではなかなか浸透しない。
- 地域では、デジタルを使って何が起きるかが想像がつかず、結果的に「今は困ってない。」という感じになってしまう。「今後困る」という現実を想像できるかどうか焦点だと思う。
- 「協議会」だけで常時上手く回っている自治体を知らない。良くも悪くも強烈に推進するリーダーが必要で、そういう方がいないと形骸化してしまう。
- DXの推進はあくまで手段。国でも「デジタル」という文言が外れている。何を目的とし、どんな役割とするのかを明確にし、他の組織団体とも連携を図ることが重要。

# 参考指標

## 参考指標

### 構想策定時から2024年12月時点までの進捗

- ・ 1市3町と十勝管外との間の人口移動数  
基準値 ▲556人（2018年～2022年の5年平均）
- ・ 1市3町の法人住民税の課税法人数  
基準値 7,539社（2022年）
- ・ 住民アンケートによる「行政のデジタル化」の実感度  
基準値 なし
- ・ 母子手帳アプリの登録者数（1市3町の計）  
基準値 3,585人（2023年12月末現在）

- 
- ・ 1市3町と十勝管外との間の人口移動数  
▲456（2019年～2023年の5年平均） ➡ +100
  - ・ 1市3町の法人住民税の課税法人数  
7629社（2023年） ➡ +90
  - ・ 住民アンケートによる「行政のデジタル化」の実感度  
31.8%（2023年） ※帯広市
  - ・ 母子手帳アプリの登録者数（1市3町の計）  
5,035人（2024年12月末現在） ➡ +1,450



**End**